

花鳥餘情

四



第十

繪合
松風



僧正慈海

第十一

為雲

權乙女

第十二

玉鬘

花鳥餘情第十

繪合 和風



十二繪合

心付春名後拾遺集の初らふ子内親王繪合の
 申したるころ扇合ぬあひ合根合さそと云ふ事
 もて繪要とせり源氏の三廿歳の討つ事之繪合
 の三月のけふ九歳に事い物得し事身たりわや
 常舟官より出りし事

云ふ常舟まはれとをのゝ伊勢より物あはた
 ころしき事二葉の門に十と早瀬よりうらみ
 ありし事いづらふふらふのこもりゆめを
 うらむらふらふのこもりゆめをいづらふ
 ありし事いづらふのこもりゆめをいづらふ
 ありし事いづらふのこもりゆめをいづらふ

るうさう孫うさうは花れ枝とらんま
うさうさうちんらたうまうさうさうさうの
言のふまもふまあま

身うさうさうさうさうさうさうさうさうさう
朱雀院の市うさうさうさうさうさうさうさう

ひうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
楊貴妃うさうさうさうさうさうさうさうさう
我謝と上皇とさうさうさうさうさうさうさう
思ふやゆり 朱雀院とさうさうさうさうさうさう
まうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

うさうさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさう

うさうさうさうさうさうさうさうさうさう

臘月あめ向ひのはまうさうさうさう

うさうさうさうさう 三月さうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

女房のさうさうさうさうさうさうさう

女房さうさうさうさうさうさうさうさうさう

北条平天徳四年三月廿日内裏多合と撰りて

わさうさうさうさう清涼殿の西乃府と有けり

盤所之御侍子南才四間方左方女座座水二
間方右方座渡後後市小女御端五五為る座後除
後後實子為侍座座西宮託託らん

方方三三ののにに下下のの物物とと言言
ののははみみささららししききららいいりりややららいいののままりり

天徳寺合合たた方方例例漬漬じじ檀檀机机蕨蕨芳芳下下机机紫紫符符
地敷地敷

しし葉葉たた方方終終のの紫紫檀檀のの首首よよくく蕨蕨芳芳本本ととつ
くくわわ花花足足よよ下下ははくくああくくよよかかきき
物物いいららなないいししききららいいははくくええととと
つつははじじききらられれのの蒲蒲菊菊除除のの終終天天徳徳の
つつははじじききららいいははくくええととと

地地ままりり

わわのの人人ああららいいのの下下ははくくああららいいののままりり
くくれれるる井井わわららいいののままりり

ああららいいののままりりははくくええととと
ああららいいののままりりははくくええととと

石石ららんんののままりりははくくええととと
ああららいいののままりりははくくええととと

天徳寺合合右右方方例例漬漬机机蕨蕨芳芳下下机机紫紫符符文文
織物地敷織物地敷
しし葉葉たた方方終終ののままりり

春の東遊と云ふ能の二の事

文々の行のめいといふ事
いふ事あり

文々の事と云ふ能の事

その事と云ふ能の事

その事と云ふ能の事

その事と云ふ能の事

例といふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

李部王記平四年新書

祇唯作云平季の事

名直と云ふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

師文終の判者たるは...と別録に
...

...

一、車中交よるは...
のきくも...
あゝあゝいふ...
らむの...
さむ...
いふ...
り...
申言...
申言...
申言...

わす...
ら...
あ...
つ...
...は時...
世...
...泉院...
...の例...
...
...
あ...
...

十三松風

以何通平一為春名海氏廿歲の事行りよあ
る坊同年と

えんこれ院はくうくそく花ちる里とまに
うのりり行

し女角よ六条院はくうくそく花ちる里とまに
之条の東院はくうくそく花ちる里とまに
多よら條院つくりそく花ちる里とまに
そく花ちる里とまに
まらこんこりこれ東院母らわきま
ほむらりこりこりこりこりこりこり
ううわうくく慶安殿いふこりこりこり

河海の院あやまはうけ志のこりこりこり
院れ西の對よまらう東院のまらう
のほわこりこりこりこりこりこり
こりこりこりこりこりこりこり

醍醐中子中務の兼明親よ山荘在在井河畔号雄藏殿
くけ親よと明志のこりこりこりこり

こりこりこりこりこりこりこりこり
後合の春の末よこりこりこりこり
思ふよこりこりこりこりこりこり
こりこりこりこりこりこりこりこり
あつこりこりこりこりこりこりこり
あつこりこりこりこりこりこりこり

臺と作て清涼寺といふはあはれ寺は小野の石
府記永延元年八月十日法橋上人住齋然中法云
以受太子山号五臺天清涼寺建立一伽藍首自
梅檀大迦尊像といふ人迦の齋然入唐して作り
作佛といふ清涼寺といふ名ありてこのあり
也貞觀七年の國史といふなり又孝節王記天
唐は法橋齋然寺人迦臺といふなり齋然作ら
しうさりて中法といふありてこのありてさ
中へ可後清涼寺といふなりといふなり中へ齋
然別一臺といふなり三傳人迦の女尊といふ
ふのうらゝの志は申行といふて
兼明親王長男法中伊納言二男伴行後四位上

春文皇子臣部大捕と兼明親王の文書
これらの人をこれなり也そののち清涼に
ひかへてといふていふは法橋のありて
伴法師といふといふありてさりてこのあり
のいなりといふなりとありてさりてこのあり
といふなり荒の志といふなりといふに
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり
といふなりといふなりといふなりといふなり

奏^奉

奏の文書の事

いんげんもむしり... 女...
か...

あふ... 招く...

早... 招く...
と...

あふ... 招く...

兼明... 天延三年八月... 山... 祈... 念...

あふ... 招く...

李郭... 記... 天... 年... 三月... 帝明... 統... 樓... 震... 寺... 新

堂... 後... 先... 室... 首... 中... 國... 志... 法... 書... 女... 員... 金... 也... 未... 身... 人... 也... 如

來... 像... 一... 祈... 同... 記... 樓... 震... 寺... 人... 也... 三... 信... 法... 花... 三... 昧... 六... 信

信... 新... 稿... 七... 千... 束... 舟... 渡... 播... 磨... 國... 加... 奉... 事... 奏... 請... 入... 永... 代

長... 講... 三... 昧... 三... 行... 一... 心... 一... 行... 一... 年... の... 功... 神... の... 言... 行

三昧... 三昧... 三昧... 三昧... 三昧...

月... 大井... 甲... 乙...

... 我々も同じく...
... 中將...
... 船物の被...
... 月意...
... 幸...
... 中將...
... 船物の被...
... 月意...
... 幸...

... 中將...
... 船物の被...
... 月意...
... 幸...

... 中將...
... 船物の被...
... 月意...
... 幸...

石大弁...
七條北朱雀
七條坊門三リ以南七條以北朱雀東面也
拾六
... 中將...
... 船物の被...
... 月意...
... 幸...

才申すこと相付く仰り又一本よらたふ事と

何

重なるもの申すに於て其の月日申す事。新くせん
り申すに於て其の事乃そとらう。白院崩壊の事と
しる事

りたもさるくようの事なく 大井よりせられ

らるまうもの物と管経を一人よりせらる

と申すに各々も物と

小山大將儀之補物高申事定物高申事申事相付
陣座定補先成府奏付殿上中將 奏付後令其管経を
之帯懸人より次將 次中將執筆下定書高長以下は
若付懸人より 大長以下は將或
曹依次百五稱唯進之再拜

今案物高申すに於て其の事合ふの中へ東越達

しる物高申すに稱するの中へ青長府常

事存すに於て春日意智原意智原の羽

林東越達事申すに於て其の事合ふの中へ

舞とて陪従の府生加陪従とて侍の官に也陪従

とて和歌今節未候も歸ら相摸の大お還り

又子有東越達事物高申すに於て其の事合ふの中へ

百人を申すに於て其の事合ふの中へ

青長とて其の事合ふの中へ

長とて其の事合ふの中へ

いふに其の事合ふの中へ 務事

思ふに其の事合ふの中へ

ていでんたひんして何れ我國のわがし
らうとてかゝるしはしるひのわがし
身もまわしとてわがしるひのわがし
まうかかゝるしはしるひのわがし
あしをらうとてわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし

わがしるひのわがしるひのわがし

わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし

花鳥餘情第十一

藤雲 権し女

十の葉を

ふをる春若人何そわがしるひのわがし
あしをらうとてわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし

わがしるひのわがし

わがしるひのわがしるひのわがし
二条院の東院の

わがしるひのわがしるひのわがし
わがしるひのわがしるひのわがし

わがしるひのわがしるひのわがし

わがしるひのわがしるひのわがし
竹若の二条院の

わがしるひのわがし

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in cursive script, continuing the text.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the text.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

古来院の清子は事...
人されぬありけり...
院の清子は事...
てわぬ院の清子は事...
ひ事もなきありけり

清は事なきありけり
海軍の清子は事...
かへらあはれ...
天下静園の事...
清は事なきありけり

信の事

五眼の事
肉眼天、法、慧、佛、釋

海軍の事

海軍の清子は事...
陽成院の清子は事...
陽成院の清子は事...
陽成院の清子は事...

陽成院の清子は事...
陽成院の清子は事...
陽成院の清子は事...
陽成院の清子は事...

秋の夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす

秋の夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす
秋の
夜長
月影を
照らす
庭の隅
に
花の
影を
落とす

たう再初ある名係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十五番

一 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
二 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
三 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
四 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
五 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
六 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
七 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
八 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
九 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十一 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十二 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十三 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十四 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十五 係中其一系の事ニ記す事ニ係す

一 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
二 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
三 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
四 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
五 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
六 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
七 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
八 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
九 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十一 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十二 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十三 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十四 係中其一系の事ニ記す事ニ係す
十五 係中其一系の事ニ記す事ニ係す

一 係中其一系の事ニ記す事ニ係す

かゝるに

并院のありては、行りしを、
阿彌の乃并院の、
實年のありては、
所能のありては、

こゝのありては、
女ありては、

けりては、
るを、
ありては、
いふ、

眼者の、
らり、
ありては、
神、

ありては、
ありては、
ありては、
ありては、

ありては、
ありては、
ありては、
ありては、

これら

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録
丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録
丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

丁酉年三月廿七日
清少納言と書状の目録

あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども
あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

あつたらぬさうな事なれども

十六日

新再伺^らる名條申^すまは^じ三^つ日^びの^あまの^め
十月またその事^{ごと}け^き申^すまは^じの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め申^すまは^じの^あまの^め

去年の三月^{みづつき}に^あまの^めを^しら^せら^れた^まは^じ

周囲^{しゅうい}の^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め申^すまは^じの^あまの^め

天下^{てんか}の^あまの^めの^あまの^めの^あまの^め
の^あまの^めの^あまの^めの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め申^すまは^じの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め申^すまは^じの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め申^すまは^じの^あまの^め

申^すまは^じの^あまの^め

入學の旨を述べしむるに當りて
其の旨を述べしむるに

うはらふと申すに
うはらふと申すに

あはれはく事申す

知名抄文章院

学牛の入学の時文章院の書院に於ては
名簿のあはれはく事申すに
清和のあはれはく事申すに
源朝のあはれはく事申すに

このあはれはく事申すに
このあはれはく事申すに

人々のあはれはく事申すに
人々のあはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

博士博士と申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

あはれはく事申すに

行東脩し礼於其師者布一端延喜式云凡遊學者
徒清願入學不限年多其惣加簡試其有通經聽
願學生但諸王及五位已上子孫不煩簡試

かてこの院のうらよはさうしはくく

と条に東院は曹司として學問多
るにけりうあそんくまのまはくく

まはくは察試うあそんくまのまはくく
申さうう學問大學察試と試と察試と
り試と史記と向しとくくまはくく
人と擬文章生と補す擬を王とくく凡
儒業とほくく人少才道とあそんくく

學問料姓料と給うく九年の間常あつ
とあそんくく即とつとこのら大學察試と試ら
史記と向しとくく義と向しとくく
三と条と通とととあそんくく文章得
業けと補すとくく又檟樟七年とくく
本と七年とつと月とくくと七年あつ
學問とつとつと或者として課試とくく
と作つと業の文とくくとくく
進士の二科ありあそんくく方略とくく
端乃とくくと心と所業の取問とくく
か中とくくと進士と時務とくく
か令とくく書とくくと後とくく文章

白業生二人あり、あやむのあはしう、あはしう、結新
 といふて、字同、いふて、あはしう、あはしう、字略の宣旨
 といふて、あはしう、或る者、て、課試を、いふて、又、入字
 の白業^衆も、いふて、あはしう、博士、いふて、あはしう、
 大守、あはしう、て、試て、又、史記、いふて、あはしう、
 と、擬文章、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、これ、と、或る
 者、と、試て、あはしう、あはしう、いふて、あはしう、
 章、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 勅題、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、文章、
 生、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 試、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 といふて、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 といふて、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、

乃、方略、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 又、亦、田、の、揚、あはしう、あはしう、あはしう、
 物、之、系、官、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、
 文章、生、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、
 何、いふ、文章、生、いふて、あはしう、あはしう、
 朱、崔、院、の、り、章、の、印、いふて、あはしう、あはしう、
 乃、弟、いふて、あはしう、あはしう、あはしう、
 何、いふ、あはしう、あはしう、あはしう、
 子、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、
 子、あはしう、あはしう、あはしう、あはしう、

信長公の御内但開きなれりとのらひ世禰
あり信長の清盛とあり内人信長と相國信長と
いふことありまじき事なり

掩韻のまじき事一林のるまあり事
こゝんとありしことあり

信長公の御内女二人の御内女御母の御内
政長公の御内今一人の御内女御母の御内
とありし事一梅窓大御言の御内

いふことありしことあり
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一

信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一

信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一
信長公の御内事一ウメ窓の御内事一

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the notebook. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the notebook. The text is dense and fills most of the page.

和名抄唐韻云籧許規及和角籧童子佩籧說文角銳端可以解結者

籧篚乃者許規及和角籧童子佩籧說文角銳端可以解結者

おのじきもいせむのくみしうくもあは

礼記内則の篇の言ふ所の父母の礼を以て

何の身もくもあはれりては父母の礼を以て

父母の礼を以ては父母の礼を以ては父母

の礼を以ては父母の礼を以ては父母の

礼を以ては父母の礼を以ては父母の礼

を以ては父母の礼を以ては父母の礼を

以ては父母の礼を以ては父母の礼を以

ては父母の礼を以ては父母の礼を以て

は父母の礼を以ては父母の礼を以ては

父母の礼を以ては父母の礼を以ては父

母の礼を以ては父母の礼を以ては父母

の礼を以ては父母の礼を以ては父母の

礼を以ては父母の礼を以ては父母の礼

を以ては父母の礼を以ては父母の礼を

以ては父母の礼を以ては父母の礼を以

ては父母の礼を以ては父母の礼を以て

は父母の礼を以ては父母の礼を以ては

父母の礼を以ては父母の礼を以ては父

母の礼を以ては父母の礼を以ては父母

の礼を以ては父母の礼を以ては父母の

礼を以ては父母の礼を以ては父母の礼

を以ては父母の礼を以ては父母の礼を

以ては父母の礼を以ては父母の礼を以

ては父母の礼を以ては父母の礼を以て

は父母の礼を以ては父母の礼を以ては

父母の礼を以ては父母の礼を以ては父

そとまはらるる

かひい^三幸しむるはるる

いひくはあしむるはるる

あやそまはらるる事^三善相の意見

下りて

中且乃日といふ事性ま試とらる事^三主上志遊光ありて
ゆゑ冬といふ事性ま試とらる事^三主上志遊光ありて
ゆゑ冬といふ事性ま試とらる事^三主上志遊光ありて
ゆゑ冬といふ事性ま試とらる事^三主上志遊光ありて
ゆゑ冬といふ事性ま試とらる事^三主上志遊光ありて

わらわら
ふらふら

あやそまはらるる

ふらふら^三十月申七日舞妓

と入或時各別有様皇出御宣日御常儀あり日

舞妓席位見存日幕書舞妓進舞

あやそまはらるる

そまらるる

あひら^三年しあひら

あひら^三年しあひら

あひらの舞

あひら^三年しあひら

あゆまらうららるる

舞妓の妝束半七日の赤色唐衣宣日の青色
唐衣辰日の青摺唐衣赤緋日蔭翳あ青摺
い小忌の事一海軍の事いふもいふも辰日舞
まわのあゆまらうららるるの事いふもいふも
うららるる

あゆまらうららるるの事いふもいふも
前舞の文政京の河部部有積前舞院退出
し時お幸崎修積の事いふもいふも解除
又幕の部^波の事いふもいふもいふも
ゆり

あゆまらうららるるの事いふもいふも
六信の事いふもいふもいふもいふも
かたかたの事いふもいふもいふもいふも
井の事いふもいふもいふもいふも

あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも

あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも
あゆまらうららるるの事いふもいふも

天長十一年正月一日仁明天皇幸深和院見團扇矣
非又子時の幸と皇例

唐十一年正月四日村上天皇幸朱雀院但母后亦同
宿謁太后于柏殿見李都日記其後度々幸此所抑
急山院御宇文永八年五月の幸後深草院亦
長祿堂之暇有沙汰の中下所如朝觀行幸被止
天長末例

内裏目ると再才一二つ着赤色又後上賜ら時
如し西之抄青色袍乃下籠衣の裾より縁或柄葉
と着月十二日

天長十一年正月一日仁明天皇幸深和院見團扇矣
非又子時の幸と皇例

律帝試し勅題とするは長祿和康保等の例
又藤原院寛治四年馬羽後行幸に勅下勅題

有進書試

はるね舟よおしこりあつたふりてゆへ

教通の試に待たしるは圖書下を奉じて

うきりねぞとていへりやふりてゆへ

院の御下はさしはこりりりりりりりりり

院の御下はさしはこりりりりりりりりり

考のしりりりりりりりりりりりりりりり

るよとれ律帝考へりりりりりりりりりりり

律代のねりりりりりりりりりりりりりりり

あつたのしりりりりりりりりりりりりりりり

柏原の漢武帝の柏原後よちりりりりりりりりり
正月朱雀院行幸御太后名干柏原の中の人等部

日記

院をくしりりりりりりりりりりりりりりり

けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

すりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

人くりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

作文の役りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

かうりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

鷹の事りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

中文の事りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

中文の事りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

花鳥餘情第十一
玉鬘
花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

花鳥餘情第十一
玉鬘

神龜元年二月廿三日勅依房前明行奉持不
款下稿三千束為長壽寺造佛料物云々
と奉まじりし事云々長原のゆり云々
中の誓書云々新信也云々
のせわれ云々云々
もろろの云々云々
ゆり云々云々
いふれ云々云々
あつらひ云々云々
からう云々云々
よもろ云々云々
小石記に曆元年九月八日奉長壽寺午時の椿

市令交易市明灯心黒木茶所堂作風韻布女
端市明三万灯云々
ら云々云々
け物云々云々
とん云々云々
あふ云々云々
の三人云々
みあ云々云々
云々部云々延長八年八月作願文達行長壽寺
奉灯明十方灯小石記云々曆三年三月奉長壽寺
百市明十方灯云々
云々云々云々

石道の若くは初ねはあはれしや

みい人のあはれしやあはれしや

むい人のあはれしやあはれしや

まゝしやあはれしやあはれしや

三入あはれしやあはれしや

のいしやあはれしやあはれしや

あはれしやあはれしやあはれしや

白氏文集
百律流

又ア〜〜〜

寺部王紀延長八年八月卯卯文遠新長古寺
親音願寺高平愈將造白檀額高像乃奉造
一面灯明十方灯

ト案内^文延喜の帝ノ詔に^ハハ

〜〜〜
〜〜〜

後^五〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

Handwritten Arabic script at the top of the page.

Main body of handwritten Arabic script on the left page, consisting of approximately 12 lines.

Handwritten Arabic script at the top of the right page.

Main body of handwritten Arabic script on the right page, consisting of approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

老乃其のよきなり

るまをかくんあくふてしとて師をもちらひて
貞觀改要唐太宗嘗謂侍臣曰銅為鏡可以正
衣冠以古為鏡可以知興替以人為鏡可以明得失失朕朕
常保州之鏡以防過今魏徵徂逝遂亡一鏡矣今棄
人而後之遂無魏徵之於我若衣冠之於人
衣者表之也衣冠之便者亦衣冠之於人
衣者表之也衣冠之便者亦衣冠之於人
衣者表之也衣冠之便者亦衣冠之於人

らまをかくんあくふてしとて師をもちらひて
貞觀改要唐太宗嘗謂侍臣曰銅為鏡可以正
衣冠以古為鏡可以知興替以人為鏡可以明得失失朕朕
常保州之鏡以防過今魏徵徂逝遂亡一鏡矣今棄
人而後之遂無魏徵之於我若衣冠之於人
衣者表之也衣冠之便者亦衣冠之於人
衣者表之也衣冠之便者亦衣冠之於人

末摘のありしをいふは
しきりやう多らぬわのりわ事なり
保のちあはれはわのちあはれなり
老乃其なり

保のちあはれはわのちあはれなり
老乃其なり
あはれもわのちあはれなり
やうあはれなり
海賊のちあはれなり
あはれなり

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, starting with a large initial letter.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous line.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous line.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous line.

色は青く花は白く
袖口は白く花は青く

花は白く袖口は青く

花は青く

花は白く袖口は青く

花は青く

花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く
花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く

花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く

花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く
花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く
花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く
花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く
花は白く袖口は青く
花は青く袖口は白く

いかにあはれなるか

柿の葉のいろは歌

はつたのうらやま

花のよきとて

みるもあはれ

あはれなるは

はつたのうらやま

いかに

いかにあはれなるか

いかにあはれなるか

あはれなるは

はつたのうらやま

あはれなるは

いかにあはれなるか

あはれなるは

はつたのうらやま

あはれなるは

いかにあはれなるか

あはれなるは

いかにあはれなるか

あはれなるは

はつたのうらやま

あはれなるは

いかにあはれなるか

あはれなるは

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It features several lines of text with some variations in line length and spacing. The script is consistent with the one on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written on the right page of an open book. The script is dense and flowing, characteristic of 17th or 18th-century cursive. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear, including some staining and a small hole at the top center where the pages are bound.

俗名增島之市道室秀夏信

